

30amE-187

食品衛生外部精度管理用調査試料の作製検討－残留動物用医薬品検査用調査試料編－

○高坂 典子¹, 勝村 利恵子¹, 福光 徹¹, 鈴木 達也¹, 渡辺 卓穂¹, 小島 幸一¹
(¹食品薬品安全セ秦野研)

【目的】食品の安全性を確保する上で、検査機関における検査結果の信頼性確保は重要であり、そのための精度管理の実施が必要不可欠である。外部精度管理において適正な評価を行うためには、均一性・安定性がともに確保されたより実際の食材に近い調査試料の開発と提供が求められる。そこで当財団が実施する外部精度管理における調査項目の一つである残留動物用医薬品用調査試料の作製検討を行ったので報告する。 【方法】基材として鶏 3 部位及び豚 4 部位の生肉を用い、各部位にスルファジミジンを含むサルファ剤 10 種を添加し、均一性を検討した。いずれも、三度挽きしたミンチ肉を用いた。鶏ササミでは作製量全体の 10、20、30 及び 40%となるように水を加えた後、豚肉では水を加えずにサルファ剤を添加、混合した。均一性が得られた部位について、冷凍及び冷蔵による保存安定性、さらに繰り返し凍結融解安定性を検討した。添加薬剤の濃度測定は、食品衛生法に準拠し液体クロマトグラフィーを用いた。均一性の検討は、一元配置の分散分析により行った。 【結果及び考察】各基材が含有する水分及び脂質の量により、水添加の必要性あるいは水添加量と均一性の関係が異なり、水無添加でも鶏のムネ、モモは良好な均一性及び安定性が得られ、基材として使用できること明らかとなった。豚の各部位に添加した 10 種のサルファ剤は、バラを除くいずれの部位でもすべての薬剤の回収率が 70%以上であり、均一性も良好であった。冷凍及び冷蔵による保存安定性は、薬剤、基材部位により低下するもの及び腐敗による妨害ピークの出現により見かけ上高くなるものが認められた。調査試料には、基材及び添加薬剤の適切な選択が必要であることが示唆された。本研究は、厚生労働科学研究費補助金により実施した。